

# 重要性が増す新時代の日米関係

## Market Eye

日本と米国は、産業のつながりが分断された新たな時代において、協力関係を強化するほぼ無限の可能性を有している。明らかに、中国のサプライチェーンと技術革新は、さまざまな意見の対立によって混乱し始めている。米国のハイテク企業は世界中で製品を販売し、最も低い原材料価格を探し求めていることから、グローバル主義者でありたいと考えているものの、最近では好むと好まざるとにかかわらず、国家安全保障とサプライチェーンの信頼性が、極めて重要な要因になっている。

### 日米欧が技術独占

日本と米国は、互いのサプライチェーンや、知的財産権の尊重と国際法の順守について信頼している。一方、日本は中国との関係改善についてあまり積極的ではないようにみえる。日中関係はここ数年、両国の文化や経済関係、特に日本への観光が

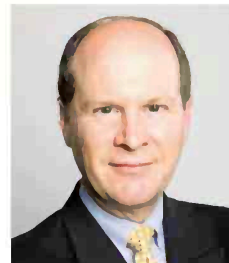
日興アセットマネジメント  
チーフ・グローバル・ストラテジスト

### ジョン・ヴェイル氏

改善しているが、数十年にわたって警戒と軍事的脅威が特徴だった。

半導体製造において、日本、米国、欧州はいずれも、最先端技術を要する製造分野に進出しようとする国々の試みを阻むことができる。日米欧の企業は、半導体生産に必要とされる機器や部品、化学物質を事実上独占しており、ごくわずかな部分でもそれらの企業に拒否されれば、工場はまったく稼働できない。代替品を探しても、大半の企業の需要を満たさない公算が大きい。

極めて重要なソフトウェアも同様で、グーグルの基本ソフト（OS）「アンドロイド」の完全なシステムには、アプリのインフラへの接続が含まれている。多くの重要な産業の新工場において必要とされる、最先端ロボットやその他の生産設備は、日本がほぼ独占している。これらの事実、先端技術の製造分野に進出しようとする国々が、その供給国と



良好な関係を保つ必要があることを示唆している。

為替に関しては、国の競争力を決める主要因が、製品やサービスの貿易収支であると認識することが極めて重要だ。この点では、日本はかなりバランスがとれている。経常収支が最も重要だと考える向きもあるが、海外からの所得があるからと言って、国の通貨が強含まなければならない理由があるだろうか。いずれにせよ、円は過大評価されているようにみえてくる。

### 1ドル＝110円前後に

米国の対日貿易赤字は対欧・対中貿易赤字に比べれば、微々たるもので、大半が自動車によるものだ。しかも、日本は既に大規模な米国での

生産拠点をさらに拡大しつつあり、これによって日本の対米貿易黒字は今後縮小し、もしかしたら、ゼロになる可能性もある。

ドル円相場は、今後何年にもわたって、許容できる1ドル＝110円前後の水準にとどまるとの予想には、正当な理由がある。日本の投資家がパニックを起こさない限り、という条件がつくが、そうしたことを防ぐために、為替相場の安定に向けた強いコミットメントを示す日米両国間の合意があれば、良好な関係は保証されるだろう。

覇権国にとって、失われた最盛期の優位性を取り戻すのは難しい。だが情報経済が果たす役割と新たな国々の台頭を考えると、そうした努力は明らかに始まっている。指導者が力を失った時に誰が真の友人や支援者なのか分かるように、米国にとって最も重要な友好国が、チームとしてとどまるために必要な緊密なパートナーシップの要請に応じてくれるかどうかは問題だ。

そうした国が十分にあれば、チームは技術面で支配的な立場を維持することができ、国内外の対立の影響を受けることはないだろう。